

# 事業報告書

平成 27 年度

## 社会福祉法人 永寿福社会

特別養護老人ホーム喜連

特別養護老人ホーム長吉

長吉西地域在宅サービスステーション

老人保健施設永寿ケアセンター

永寿特別養護老人ホーム

永寿の里若葉

永寿の里彩羽

永寿ホームあおぎり

永寿ホームヘルプセンターしおり

相談支援事業かけはし

長吉地域包括支援センター

平野区瓜破地域包括支援センター

永寿平野西の家

ひなたぼっこ

## 目 次

I. 平成27年度の総括	－ 1 －
II. 高齢事業部での重点取組みについて	－ 2 －
III. 障がい事業部での重点取組みについて	－ 4 －
IV. 地域相談事業の運営	－ 5 －
V. プロジェクト活動について	－ 6 －
VI. 社会貢献事業	－ 6 －
VIII. 苦情解決・第三者委員活動	－ 7 －
IX. 外部評価・自主監査の実施	－ 7 －
X. 会議、委員会の実施状況について	－ 8 －
XI. 人財育成の取組みについて （研修実施の状況）	－ 10 －
XII. 災害対策の実施について	－ 16－

## I. 総 括

27年度は、法人の新しい中期計画とその目標に基づいて活動していくスタートの年度として活動を行った。社会福祉法改正や制度変更のみならず、社会全体の大きな変化に備え、強い法人へと発展を遂げるために活動を行った。

各サービス事業の実施において、平成27年度の状況は事業収支の予算目標に対し予算を上回る結果となった。事業の実施状況において利用者の確保が順調に行えたことや、感染症の時期に施設内での感染が防止できたことなどで収入目標を大幅に達成できたことがその要因の一つである。支出においては、LEDの導入や節電活動を通じた活動による削減活動等によって水道光熱費が削減できたことが、予算達成の要因となっている。また、採用募集に対する希望者の減少もあり、予定していた従業員の配置が行えなかったことで、予算をしたまわり収支差額が上乘せされる結果となった。従業員の不足した中で収入予算を達成できたことは一人ひとりの従業員の努力の結果であり、労働者不足といわれる社会情勢の中で適正な従業員体制を維持していくことが次年度以降の継続した課題となる。

高齢事業部は根拠に基づいた一人ひとりへのサービス提供と科学的介護に取り組むことによるサービス内容の向上に取り組んだ。その結果トイレでの排泄ができるようになった方や、重度の方の生活が安定し結果として入院される方の減少等、今までの取り組みの成果につながった部署も出てきている。一方サービスの向上に向け努力を重ねた中でも結果につながらない部署もあり、その取り組みを結果につなげることが今後の課題となった。今求められている地域包括ケアの中においても、各施設、各事業所が役割を果たせるように今取り組んでいる内容をより一層高めることと、それぞれの事業所が果たす役割を明確化し地域の中で必要とされる事業所となるよう取り組みの継続を行う。介護サービスのマニュアルの再整備も終了し、併せて各施設従業員キャリア段位制度の評価者の育成も行った。一人ひとりの従業員が同じサービスを提供するための基準整備と介護サービスのレベルの評価に取り組んだ活動を、次年度以降すべての従業員がいつでも同じサービスを提供できる従業員の育成につなげていく。

障がい事業部では、平成24年度からの中期計画が最終年度にあたり、サービスの質の向上を目指し、OJT担当者養成研修の導入等、人財育成を中心に取り組んだ。

お客さまの高齢化・疾病予防に関して、健康増進プログラムの導入、竹内理論に基づく支援体制の構築等をすすめ、若葉・彩羽・あおざりが一体となって取り組んだ。本取り組みにおいて各部署間の連携が強化され、人財育成にも結果を出すことができた。

また、ワーキングで進めていた障がい児放課後等デイサービスを年度当初から開始した。事業としては後発の部類に入るもののスヌーズレンを軸に、グラウンド等の資源を活用しながら、ターゲットを八尾、松原地域に広げ、客層を広げた。中期計画では新規ホーム開設の予定であったが、既設ホームが建築基準法に抵触すると行政指導や改正消防法に抵触する恐れが判明し、新規ホームが既設ホームの移転先となり、新たなニーズに答えられなかった。しかし、平成27年1月の開所・移転にあたりホーム入居者の移動も含め、より快適な生活空間の創造を行うことができた。

平成27年度からの中期計画策定ワーキング、平成27年度事業計画策定ワーキングを昨年10月より取り組み、昨年4月入職の従業員も参画する等、共に学ぶ『場』の創造が人財育成に効果があることが検証できた。

## Ⅱ. 高齢事業部の重点取組みについて

### 1. 科学的介護の実践

竹内理論に基づいた科学的介護の実践を平成25年からの2カ年の取組みとしてスタートした。年6回の研修参加とその間に学んだ科学的介護の実践を行う形で特別養護老人ホーム3施設において25年度から取組みを開始した。平成26年度からは、和歌山分校への参加を老人保健施設の従業員の出席を行い、一層の機会の充実を図った。科学的介護の実践では、老人保健施設を含む全施設で、まず適切な水分摂取量の摂取を支援するという基本部分に取組み、お客様の心身の働きを活性化させ、歩行やトイレでの排泄などの取り戻しに取組んだ。また歩行能力の評価だけではなく、インターライに基づいて様々な角度から評価し慎重に取組んだが、お客様の心身の働きが活性化することで、自ら動作を取って転倒につながるなど、新たなリスクが生じることも確認され、従業員の知識・技術の習得だけでなく、対応力の向上が新たな課題となった。

### 2. 継続した取組みとしての「根拠が明確で良質な」サービスの提供

#### (1) インターライケアプランの取組み

インターライ方式を用いて、個別と根拠に基づいた、一人ひとりに合ったサービス提供を行っていく態勢づくりと実践に取組んだ。スタッフ一人ひとりが自分の役割を果たしていくことで継続したサービスの提供が実現され、お客様の生活の向上につながるチームも出てくるといった成果が見られた一年となった。お客様へ当たり前のサービスとしていつでもどの従業員からも一定のサービスが提供されることの重要性を再認識できた年となった。課題としては、指導者の育成とそれに関連する、施設間やチーム間の格差への対応があり、次年度での継続した活動が必要である。

#### (2) テーナの取組み

介護力向上講習会のおむつゼロの取組みにあわせて活動を行った。自立支援とともに歩きやすいアイテムの活用や一人ひとりの排泄状況の把握のノウハウを活用し排泄の自立へと取組んだ。また、施設サービスにおいては、「科学的介護」における「おむつゼロ」への取り組みの基礎を支える重要なサービスとしての定着を進めることが出来た。

#### (3) 安全な介護（介護マニュアル）

安全な介護に基づいたマニュアルを基に介護サービスを提供し、日常生活の中で自立を支援した。科学的介護の実践とインターライによる個別の介護サービス提供を行う上でお客様の自立または機能維持につながる重要な基礎の活動となった。

#### (4) ロボットスーツ「HAL」を活用した取組み

永寿ケアセンターにて前年度に引き続き「HAL」を活用したリハビリテーションに取組んだ。「HAL」の利用者の大幅な増加は図られなかったが、リハビリスタッフによるリハビリにとどまらず、介護スタッフによる在宅復帰へ向けた生活リハビリの取組みをスタートすることができた。入所されているお客様へリハビリのサービスを提供し、老人保健施設本来の取組みを継続することで、在宅へ復帰される方が50%を超え、在宅復帰強化型老人保健施設としての要件を満たした。求められる役割を果たすとともに評価の高いサービスの提供につながった。

### 3. 認知症の方へのセラピーを通じたアートセラピーの研究

永寿平野西の家の2階部分の永寿フィーリングアーツセンターにおいて、担当者が永寿平野西の家のお客さまへの実施はもとより、移動可能な設備を使用して法人各施設での出張公演を実施した。施設の各フロアや通所サービスのお客さまへの実施を通じ、お客さまへの精神的安らぎに働きかけ、認知症で普段は感情表現が乏しかった方が、笑顔や涙を流されるなどの変化が現れる場面もあり、セラピーとしての有効性が再確認された。

### 4. Q | 事業への参加

(財)ダイヤ高齢社会研究財団主催のQ | 研究会へ参加し、インターライケアプランを用いたサービスの質の評価に取り組んだ。インターライのケアプランに対応した介護サービスの基本システムへ変更を同時期に行ったため、QI 指標に基づいたサービスの質の評価と改善に向けた活動までは行えなかった。施設・居宅版Q | から抽出し簡素化したリスクに関するQ | 項目を毎月チェックし、事故防止対策委員会、ジョク創対策委員会、感染症対策委員会の3委員会で対応を行い、お客さまの変化に即応できるより良質なサービスの提供を行う活動については継続的に実施した。

### 5. サービス提供計画について

#### (1) 老人保健施設及び通所リハビリサービス

施設サービスについては在宅復帰強化型としてサービス提供を行った。しかし、在宅復帰率50%を維持するために毎月一定数の方を在宅への退所へ調整することが必要であり目標の稼働数を下回る結果となった。また、入院者の発生に伴い予定した方以外に在宅復帰の調整を行うことになり、より一層稼働実績を下げることとなった。通所リハビリテーション事業については年間を通じ目標を達成した。リハビリテーションサービスの提供については介護従業者による生活リハビリについても取り組み、HALについても介護スタッフによるリハビリも提供できるようになった。次年度のHALフロアの取り組みを含め、自立支援サービスの中心的な役割を果たすように活動を行う。

#### (2) 通所介護サービス

26年度の通所介護サービス事業についてはどの事業所においても、供給過剰な平野区の通所介護の状況も伴い目標に対して大きな未達となった。リハビリテーションのサービスは提供しているが同じようなサービスをどの事業所も提供している状況であり、サービスの明確化、他の事業所との差別化ができないまま終わってしまった。次年度へ向け26年度中から検討している永寿福祉会の通所サービスとして機能分化を図り特色あるサービス事業所へむけた活動を継続する。

#### (3) 介護老人福祉施設サービス

特養長吉においては入院者の発生が前年度よりも低下し目標を達成した。また、特養喜連と永寿特養においては高すぎる目標設定ということもあり入院者の発生による空床をカバーすることができなかった。今まで取り組んできたサービス向上により、体調不良や健康状態の悪化防止につなげ、安定したサービス提供を果たすべく次年度へつなげる。

#### (4) 短期入所生活介護サービス

特養長吉と特養喜連は当初の目標を達成し、喜連については入所の空床を短期入所サービスで活用し大幅にカバーした。永寿特養についてはサービス改善の取り組みで結果が出せなかった事

と感染症によるサービス調整もあり目標を下回る結果となった。ただ、一人ひとりに合わせた在宅生活の課題を解決するために、個別のサービス提供計画を作成し取り組んだ。

### Ⅲ. 障がい事業部の重点取組みについて

#### 1. 健やかな生活を支えます

##### (1) 健康増進プログラムの導入

彩羽において、お客さまの高齢化に伴う介護予防・生活習慣病予防の対策として、健康増進プログラムを導入した。導入にあたり、健康運動実践指導者の資格取得、竹内理論に基づく科学的介護の知識習得も行った。食事、水分摂取、排泄、運動の基本ケアを着実に実施することで、「ムース食から常食へ食事形態を変更した」「常用していた下剤を中止できた」などの成果が得られた。

今後、外部講師（健康運動指導士など）との連携も含め、明確な根拠に基づいた実践を積み重ね、更なる効果が期待できる運動プログラムを確立していくことが課題である。

##### (2) 健康診断の見直し

病気を早期に発見し速やかに適切な治療が受けられるよう、平成 26 年度より定期健康診断に採血を新たに追加した。また、希望者に対してがんの早期発見に対応した腫瘍マーカー検査を実施できるよう健康診断の内容を見直した。

#### 2. 福祉ニーズへ一緒に寄り添います

##### (1) 障がい児放課後等デイサービスの開設・子育ての不安へ寄り添う

地域の福祉ニーズへ応える取り組みとして、平成 26 年 4 月に障がい児放課後等デイサービスひなたぼっこを開設した。ひなたぼっこでは、「障がい児を育てる家族の不安と向き合う」というコンセプトを掲げ、障がい児へのサービス提供にとどまらず、子育て中の家族を対象とした「子育て応援講座」を計 4 回実施した。「子育て応援講座」は、ひなたぼっこを利用している家族のみを参加の対象とせず、特別支援学校などの協力を得て、障がい児の子育てに不安がある家族へ幅広く呼びかけを行った。

##### (2) 新規グループホームの開設

介護をしている家族の高齢化により、地域生活の継続が困難な状況にある方のニーズに対応するため、新たなグループホームを平成 27 年 1 月に開設した。しかし、既存グループホームの「なぎの木」と「わたの木」において、消防法の改正や建築基準法に適合しない旨の通知が行政からあり、新規グループホームを既存ホームの転居先として活用することとなった。

目標としていた「地域生活の継続」というニーズに応える事はできなかった。障がい者グループホームの設置基準や消防法上の取り扱いについては、近年厳しさを増している。介護従事者の確保が困難な社会情勢やグループホームへ対する法律の厳格化に対し、障がい者の地域生活を継続して支えていくための場の創造が大きな課題となっている。

#### 3. オンリーワンを目指します

若葉において先行して導入したスヌーズレンについて、平成 26 年度は入所施設の彩羽と新規開設したひなたぼっこへの導入を行った。導入においては、事業部内の各施設よりメンバーを募

り結成した「スヌーズレンリーダー養成グループ」が、教具の選定やレイアウト、導入時研修の開催など主体的な役割を果たした。彩羽においては、生活施設という特徴を生かし、他施設でも取り組み例が少ないナイトスヌーズレンを展開した。今後もさらなる発展が期待できる。

#### 4. 共に学ぶシステムの構築

良質なOJTを行う先輩従業員を育成する取り組みとして、新たにOJTリーダー養成グループを組織化し活動を行った。マニュアルや手順書の内容（形式知）だけを伝える従来のOJTから脱却するための活動として、個人の洞察や経験、勘に基づく知識など（暗黙知）を言語化するトレーニングを繰り返し行い、暗黙知と形式知のスパイラルアップを図った。具体的には、実際のOJT場面を想定したロールプレイを撮影し、振り返りを行うトレーニングを繰り返した。トレーニングにおける成果は、各部署におけるOJT場面で実践した。

### IV. 地域相談事業の運営について

#### 1. 地域包括支援センターの運営

平野区内にて長吉地域包括支援センターと平野区瓜破地域包括支援センターにて、総合相談の対応、虐待事例への対応、予防支援事業、地域のケアマネジャーのバックアップ等にかかわった。地域町会での見守り活動の立ち上げ支援の実施や、身近な場所での介護予防教室の開催を支援するなど、地域にかかわり新たな社会資源の生み出しを行えた。

#### 2. 在宅介護支援センターの運営

地域包括支援センターのランチである在宅介護支援センターの2か所へ専従の相談員を配置し、地域へのかかわりを行った。また、法人独自にて瓜破地域在宅介護支援センターへ相談員を配置し地域の相談対応にあたった。

#### 3. 認知症サポーター養成

在宅介護支援センター相談員を中心として、キャラバンメイト連絡会と協働して認知症サポーター養成に取り組むとともに養成したサポーターの連携についても取り組んだ。在宅介護支援センター相談員を中心として、キャラバンメイト連絡会と協働して認知症サポーター養成に取り組むとともに養成したサポーターの連携についても取り組んだ。また、これまでにサポーターになって頂いた方々に対してのフォローアップとして、「認知症を考える会」を法人内の包括支援センター及び在宅介護支援センター、永寿特養の地域担当の相談員が企画と運営を継続的に実施した。本会は、平成27年度も継続して計画している。

#### 4. フリーマーケットの開催

前年度に引き続き、5月と11月にフリーマーケットを実施した。地域の方が出店し来場者と交流するフリーマーケットのコーナーに加え、若葉と彩羽の両施設で実践しているミュージックケアの体験会なども行った。

#### 5. スヌーズレン体験会の開催

「事業部のオンリーワンであるスヌーズレンを体験できる場」「子育てに不安を抱える障がい児の家族が気軽に集まり話せる場」として、家族でスヌーズレン体験会を計5回実施した。参加者総数は延べ200名を超え、継続して参加する家族も増えており、コミュニケーションの場として確立してきたといえる。

## V. 未来プロジェクトについて

未来の永寿福祉会にとって必要な人財の育成を目的に、未来プロジェクトを実施した。既存の概念にとらわれない事業展開につなげる思考方法や実際にチームとしてプロジェクトを実行していくスキルの向上をめざし、外部講師による月1回の研修とその間チーム活動を積み重ね、育成に取り組んだ。プロジェクト活動は地域活性化、地域ネットワークの構築及び地域貢献サービスの企画開発を担当するチーム、人財の確保及び育成のための新しい考え方とその仕組みづくりを担当するチーム、ロボットケア導入と推進するための事業の企画・開発を担当するチームの3チームを編成し活動を行った。地域におけるお客様とボランティアのための場づくりと運営やHALを使ったサービスの広報活動という事業につなげ28年度にかけて継続活動を実施する。人材育成の活動については永寿の目指すサービスを担う従業員として成長するための具体的事例を整理した。平成28年度以降は各施設での従業員育成に役立てるとともに、人材育成制度の整備の基礎として成果を引き継いでいく。

## VI. 社会貢献事業

### (1) 大阪府老人施設部会による社会貢献事業

大阪府社会福祉協議会老人福祉施設部会の社会貢献事業へ参加し、制度や社会の挟間にある生活困窮者への金銭的支援を含めた生活支援に取り組んだ。当法人においては大阪府社会福祉協議会の社会貢献支援員の常駐場所の提供と各老人福祉施設を窓口としコミュニティソーシャルワーカーを配置し、地域の相談支援にかかわった。

### (2) 社会福祉法人等による利用者負担額減免事業

特別養護老人ホーム3か所と通所介護事業所4か所にて生活困窮者に対して利用料金の一部を減免し必要なサービスが受けられるように支援した。

### (3) 生計困難者のために無料又は低額な費用で介護保険法に規定する介護老人保健施設を利用させる事業

老人保健施設永寿ケアセンターにおいて、生活困難者においても老人保健施設が利用できるように、利用料金の減免を実施し生活困難者の受け入れを行った。

### (4) フィーリングアーツセンターにおける地域公演活動

平野西のフィーリングアーツセンターにおいて地域の方を招待してのフィーリングアーツ公演を実施し地域の方へのセラピーを行った。また、フィーリングアーツ研究会代表北村義博と当センタースタッフが同行し、児童養護施設や特別養護老人ホーム、医療機関などでの公演のサポートを行った。

### (5) 障がい者雇用の推進と職場定着

平成25年度より専従の従業員を配置した障がい者雇用支援部を中心に、雇用の拡大と職場定着を推進した。特別支援学校と連携を強化し、職場実習の積極的な受け入れを行ない、さらに障がい者雇用数の増を実現した。



## Ⅶ. 苦情解決・第三者委員活動

### 1. 苦情解決

平成 26年度にお客さまから寄せられた苦情の内訳は以下のとおりである。高齢事業部(表 1)は 25年度との比較における各事業所の苦情件数であり、障がい事業部(表 2)は平成 26年度における苦情分類ごとの件数である。苦情件数は全体的に減少傾向にあるものの、サービスの質やマナーの向上を要因とするばかりでなく、従業員の意識の低下や苦情を公表(風華等)することにより、申し出がしにくくなっている背景も考えられる。

(表 1) 高齢事業部苦情件数

	25年度	26年度
喜連	0	0
長吉	9	7
永寿特養	8	12
ケア	5	5
長吉西	0	4

(表 2) 障がい事業部苦情件数

	援助	生活支援	従業員	その他	合計
若葉	7	0	0	4	11
彩羽	4	0	4	1	9
地域	0	0	1	2	3

### 2. 第三者委員

障がい事業部においては第三者委員が年間を通じ、各事業所を第三者委員が訪問し、適切な助言のもと、サービス改善に取り組むことができた。指摘事項は各委員会にもフィードバックし、具体的な改善方法を検討・実施し、事業部会議でその進捗を確認した。

## Ⅷ. 外部評価、自主監査について

### 1. 内部監査事業

平成26年度から取り組んでいる外部の監査法人(太陽 AGS 有限責任監査法人)による自主監査事業において、26年度の決算実施状況の監査をもって1クールが終了したこととなった。予算作成からけさんまでの1年間の状況において、重大な改善項目なしという評価を得た。監査の中で指導いただいた実務上の課題に対して随時見直し、改善に取り組んだ。改正社会福祉法により予定されている外部監査の実施に向け次年度以降に関しても継続的に取り組みを実施する。

## Ⅸ. 会議委員会の実施状況について

### 1. 法人経営に関する会議等の実施状況

#### (1) 本部企画調整会議

毎週火曜日を基本として、常務理事と各事業部長及び本部従業員にて検討を行った。法人経営に関しての将来に向けた計画の立案を行い、役員会及び理事会での決定につなげた。また、その時々での法人経営に関する現在の課題を確認し、各施設との調整を行いながら事業経営を行った。

## 2. 事業経営に関する会議実施状況

### (1) 経営会議

法人役員と管理者以上の役職者と本部従業員が参加し各月15日を基本とし月1回開催した。社会情勢の変化に基づいた方針の確認を行うとともに、高齢者事業と障がい者事業及び事務部門での状況の確認と共有、及び法人全体と各施設における収支状況の確認と必要な対策の確認を実施した。

### (2) 高齢事業部会議

実 施 日				参 加 者			
4月10日	5月12日	6月10日	7月10日	浄閑本部長	油谷事業部長	川崎総務部長	石井企画部長
8月11日	9月12日	10月10日	11月10日	内海総務課長	大倉施設長(喜)	友近施設長(長)	金子課長(㊦)
12月10日	1月12日	2月10日	3月11日	満留課長(㊦)	横山施設長(西)	宇都宮課長(長吉)	鹿島所長(平野西)
			計12回	藪内係長			計12名

### (3) 障がい事業部会議

実 施 日				参 加 者			
4月9日	5月9日	6月9日	7月9日	浄閑本部長	油谷事業部長	川崎総務部長	石井企画部長
8月8日	9月9日	10月9日	11月8日	児玉施設長(若)	松浦施設長(彩)	太口課長(彩)	高萩係長(若)
12月8日	1月9日	2月9日	3月9日	木村係長(彩)	西岡主任(地)	日比主任(若)	篠原主任(彩)
				梶並主任補佐(若)	吉村相談員(彩)	野瀬支援員(あ)	
			計12回				計15名

### (4) 調整会議

毎月13日を基本とし、各施設の管理者及び事務従業員が参加して、各施設の収支状況の確認と労務、経理、総務に関する制度説明や、対応方法の検討を実施し、従業員が安心して働ける職場環境の充実を目指して活動した。

## 3. 事業経営に関する委員会等の実施状況

### (1) 介護サービス会議

実 施 日				参 加 者			
4月17日	6月25日	8月13日	10月21日	新田係長(喜)	植田主任(長)	田島主任(㊦)	田淵課長(永)
12月12日	12月17日	2月13日		河合係長(永)	石井企画部長	藪内係長(本)	
			計7回				計7名

### (2) 看護サービス会議

実 施 日				参 加 者			
4月23日	5月20日	6月19日	7月22日	中川師長(㊦)	花田主任(喜)	花田主任(長)	井川主任(永)
8月15日	9月24日	12月26日	1月27日	丹場主任(㊦)	石井企画部長	藪内係長(本)	
2月19日	3月24日		計10回				計7名

### (3) 施設相談サービス会議

実 施 日				参 加 者			
5月14日	7月23日	9月19日	11月14日	中村 CM(喜)	北林主任(喜)	庄司係長(長)	横手主任(長)

1月14日	3月6日			羽賀主任(㊦)	本原 CM(㊦)	柳谷主任(永)	山本主任(永)
				水口 CM(永)	廣谷相談員(永)	石井企画部長	藪内係長(本)
			計6回				計12名

(5) 通所サービス会議

実 施 日				参 加 者			
5月21日	7月9日	9月24日	11月24日	川口主任(長)	村上主任(西)	野口主任(㊦)	塩野主任(永)
1月23日	3月19日		計6回	花崎主任(永)	岡田主任(平)	石井企画部長	藪内係長(本)
							計8名

(6) 地域相談サービス会議

実 施 日				参 加 者			
4月30日	6月30日	8月27日	10月29日	竹端相談員(喜)	鎌野相談員(長)	花崎主任(永)	横山施設長(西)
12月22日	2月25日		計6回	脇坂㊦長(包)	石井企画部長	藪内係長(本)	
							計7名

(7) 食事サービス会議

実 施 日				参 加 者			
6月5日	7月4日	9月29日	12月1日	野村栄養士(喜)	竹下栄養士(長)	中村栄養士(長)	吉田栄養士(㊦)
1月28日	3月24日		計6回	坂口栄養士(永)	森下栄養士(永)	石井企画部長	藪内係長(本)
							計8名

## VIII. 人財育成の取組み

### 1. 従業員研修の実施について

#### (1) 役割区分別研修の実施

研 修 名	参 加 者	実施日	研修場所	研 修 講 師
管理者研修	部長・課長・係長	6月21日、22日	外部	株式会社ビジネス コンサルタント
組織活性化研修	部長・課長・係長	9月11日、12日	外部	株式会社ビジネス コンサルタント
中途採用者研修	平成25年度中途採用者	5月25日	C	法人従業員
新入従業員研修	新入従業員 (平成27年度採用者)	3月25日～31日	B	法人従業員

\*研修場所の表記

A 特別養護老人ホーム喜連      B 特別養護老人ホーム長吉      C 老人保健施設永寿ケアセンター  
D 永寿特別養護老人ホーム      E 永寿の里彩羽      F 各施設にて実施

#### (2) テーマ別研修の実施

研 修 名	参 加 者	実施日	研修場所	研 修 講 師
てらせん講演会	各施設管理職、監督職防災担当	11月15日	B	坂野普門寺住職

Lifo 研修	各施設中堅担当者	5月19日、11月28日	B	石井企画部長 松浦施設長
インターライ勉強会	各施設ケアプラン作成 従事者	6月7日、~3月6日 計14回	C	石井企画部長
介護技術研修	各施設中堅担当者	3月17日、18日	外部	安全な介護 実技講座 (基礎篇)
認知症介護実践者研修	各施設で選抜した従業員	各団体研修に基づく	外部	(公)大阪介護老人保 健施設協会等
組織活性化診断報告会	各施設管理職、監督職	9月27日	B	株式会社ビジネスコ ンサルタント
人権研修	各施設中堅担当者	1月14日、28日	B	大阪城南女子短期大学 前田崇博氏
接遇マナー(初任者)	各施設初任者等	11月12日	B	大阪城南女子短期大学 瀬志保氏
接遇マナー(中堅従業員)	各施設中堅従業員等	12月3日	B	大阪城南女子短期大学 瀬志保氏
記録の書き方	障がい事業支援員	8月22日	B	大阪城南女子短期大学 山本永人氏
音楽療法Ⅰ,Ⅱ	障がい事業支援員	10月27日 3月9日	B	大阪城南女子短期大学 油井宏隆氏
感染症対策	障がい事業支援員	2月5日	B	大阪城南女子短期大学 宮崎恭子氏

## 2. 外部研修の参加について

### (1) 法人関連

実施日	研修名	場 所
	主 催	参 加 者
7月3日 4日	第2回総会・第41回経営セミナー	東海大学校友会館
	社会福祉懇談会	仲谷専務理事、油谷部長
7月14日 15日	平成26年度 近畿老人福祉施設研究協議会	大阪国際会議場
	近畿老人福祉施設協議会	仲谷専務理事、石井常務理事、川崎部長、 石井部長
10月9日	福祉サロン(高齢者福祉)	東海大学校友会館
	社会福祉懇談会	仲谷専務理事
11月5日 6日	第33回全国社会福祉法人経営者大会	「ビッグパレットふくしま」
	全国社会福祉施設経営者協議会	仲谷専務理事、石井常務理事
12月3日 4日	第42回経営セミナー	東海大学校友会館
	社会福祉懇談会	仲谷専務理事

2月3日	平成26年度全国経営協高齢者福祉事業経営セミナー	パンフィコ横浜
4日	全国社会福祉施設経営者協議会	仲谷専務理事
2月13日	福祉サロン（高齢者福祉）	東海大学校友会館
	社会福祉懇談会	仲谷専務理事、油谷事業部長
2月4日	ELP（エグゼクティブ・リーダーシップ・プログラム）	箱根パレスホテル
7日	株式会社ビジネスコンサルタント	石井企画部長
3月3日	ODL（オーガニゼーション・ディベロップメント・ラボラトリー）	箱根パレスホテル
～7日	株式会社ビジネスコンサルタント	川崎総務部長
3月10日	MDP（マネジメント・ディベロップメント・プログラム）	箱根パレスホテル
～14日	株式会社ビジネスコンサルタント	油谷事業部長

## （2） 高齢事業部関連

実施日	研修名	場所
	主催	参加者
4月16日	TENA 新入職員向け研修会 ユニチャームメンリック株式会社	阿倍野市民学習センター 中庭(介)・大村(介)・斉藤(介)
4月19日	平成26年度 介護力向上講習会（和歌山分校）① 全国老人福祉施設協議会	ホテルアパローム紀の国 中村(ケ)、日野(介)、浅野(介)、久保(介)、大和(看)、川口(相)、津島(介)、田淵(課)、石井(介)、坂口(栄)、岩本(看)、長谷川(介)
4月26日	施設機能訓練指導員 実務の進め方と注意点 日総研	田村駒ビル 田淵(課)、河合(係)、藪本(介)、井川(看)、水口(介)、廣谷(相)、福元(介)、
5月8日	総合相談（ランチ）担当者研修 大阪市福祉局高齢者施策部 高齢福祉課	大阪市社会福祉研修・情報センター 竹端(相)
5月9日 6月12日 14日	平成26年度 上級救命講 一般財団法人 大阪消防振興協議会	大阪消防振興協会 大阪市西区江戸堀 日置(介)、山本(ケ)、龍原(看)、本並(介)、松永(看)
5月18日	認知症を治すケア研究会 in 関西 2014 ポラリスグループ	神戸新聞 松方ホール 富永(介)、浅野(介)、高貝(介)、檜木(介)、久保(介)、中川(介)、加藤(介)、稲田(介)、北野(介)、永井(介)、福元(介)、坂口(栄) 岡本(介)
5月22日	ターミナルケア基礎学習 お茶の水ケアサービス学院	三宮コンベンションセンター 加藤(介)、坂口(栄)、西出(介)、野中(看)
5月22日	平成26年度第11期 介護力向上講習会①	ベルサール半蔵門

23日	公益社団法人 全国老人福祉施設協議会	後藤(介)、花田(看)、宇都宮(課)、井川(看)、 吉長(介)、森下(栄)
5月22日	防火・防災管理者新規講習会	大阪市立阿倍野防災センター
23日	社団法人大阪市防火管理協会	重田(事)
5月29日	平成26年度民間社会福祉施設食品衛生研修会	クレオ大阪東
	大阪市福祉局総務部総務課法人監理グループ	野村(栄)、中村(栄)、坂口(栄)
6月7日	ポシブル医科学株式会社 現地視察研修ツアー	イオン高の原ショッピングセンター4階
	ポシブル医科学株式会社	宇都宮(課)
6月10日~ 7/30日計5日	平成26年度 大阪市認知症介護実践者研修	大阪市社会福祉研修・情報センター
	大阪市社会福祉協議会	大谷(介)、日隈(介)
6月16日	地域包括支援センター職員基礎研修	京都テルサ
17日	長寿社会開発センター	脇阪(管) 楠戸(相)
6月24日25日	平成26年度 介護福祉士実習指導者講習会(2回目)	大阪市社会福祉会館
7月8日、9日	公益社団法人 大阪介護福祉士会	長谷川(介)
7月14日	平成26年度 近畿老人福祉施設研究協議会	大阪国際会議場
15日	近畿老人福祉施設協議会	大倉(施)、北林(相)、友近(施)、宇都宮(課)、 庄司(係)
7月15日	認知症対応力向上研修	社会福祉情報センター
	大阪市社会福祉協議会	長尾(看) 前田(相)
7月17日	平成26年度第11期 介護力向上講習会②	ベルサール半蔵門
18日	公益社団法人 全国老人福祉施設協議会	後藤(介)、花田(看)、中村(栄)、井川(看)、 吉長(介)、森下(栄)
7月26日	第14回2014多民族共生人権研究集会	大阪市立東成区民センター
	NPO法人 多民族共生人権教育センター	友近(施)
8月9日	シーティング研修会	大阪社会福祉指導センター3階
	一般社団法人 大阪市社会福祉連盟	永田(介)、北野(介)、嶋(介)
8月19日	特別養護老人ホームの防災対策についての研修会	大阪市立社会福祉センター
	一般社団法人 大阪市老人福祉施設連盟	北林(相)、芋畑(事)
8月19日	高齢者虐待対応現任者研修	大阪社会福祉会館
26日	大阪府福祉部地域福祉課	松井(相) 楠戸(相)
8月22日	エンゼルケア研修	大阪市社会福祉センター3階
	一般社団法人 大阪市老人福祉施設連盟	花田(看)、吉田(看)、西出(介)、中島(介)、 本並(介)、樋口(介)、平(介)、井川(看)
9月3日	安全な介護☆実技講座 基本編 2014年度	京都府立総合社会福祉会館ハートピア京都
4日	シモヤマ企画デザイン	北野(介)
9月18日	平成26年度第11期 介護力向上講習会③	ベルサール半蔵門
19日	公益社団法人 全国老人福祉施設協議会	後藤(介)、花田(看)、中村(栄)、井川(看)、 吉長(介)、森下(栄)
9月19日	介護プロフェッショナルキャリア段位制度 評価者講習	大阪商業大学

	一般社団法人シルバーサービス振興会	田淵(課)、新田(係)、河合(係)、庄司(係)、 植田(介)
10月24日	平成26年度 介護力向上講習会(和歌山分校)④	串本ロイヤルホテル
	全国老人福祉施設協議会	中村(㊦)、日野(介)、浅野(介)、久保(介)、 大和(看)、山原(介)、田淵(課)、石井(介)、 坂口(栄)、岩本(看)、 長谷川(介)
11月6日	看護師研修会 特養における看取りを通して看護職と 介護職の連携を考える	大阪府社会福祉会館
	大阪府社会福祉協議会 老人施設部会 特養分科会	花田(看)・吉田(看)
11月20日 21日	平成26年度第11期 介護力向上講習会④	ベルサール半蔵門
	公益社団法人 全国老人福祉施設協議会	後藤(介)、花田(看)、中村(栄)、井川(看)、 吉長(介)、森下(栄)
11月25日	看護実務者研修(身体拘束廃止推進事業)	ナーシングアート大阪
	公益社団法人 大阪府看護協会	村井(看)
11月29日	2014年度 施設内虐待を防ぐための職員研修	ドーンセンター5階
	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構 大阪	谷口(介)、永井(介)、中野(介)
12月11日	特別養護老人ホーム 防災研修会	大阪市立社会福祉センター
	一般社団法人 大阪市老人福祉施設連盟	芋畑(事)、藤島(事)
12月13日	TENA 排泄ケア研究部会	御堂会館
	ユニチャームメンリック株式会社	宇都宮(課)、大和(看)、神本(介)、檜木(介)
12月17日	高齢者虐待対応課題別研修(家族支援)	大阪赤十字会館
	大阪府福祉部地域福祉課	脇阪(管) 内田(相)
12月18日	平成26年度 個人情報保護研修会	薬業年金会館
	福祉と人権の研修ネットワーク大阪	宇都宮(課)
12月22日	平成26年度 介護力向上講習会(和歌山分校)⑤	県民交流プラザ和歌山ビッグ愛
	全国老人福祉施設協議会	中村(㊦)、日野(介)、浅野(介)、久保(介)、 大和(看)、田淵(課)、石井(介)、坂口(栄)、 岩本(看)、長谷川(介)
1月22日 23日	平成26年度第11期 介護力向上講習会⑤	ベルサール半蔵門
	公益社団法人 全国老人福祉施設協議会	後藤(介)、花田(看)、中村(栄)、井川(看)、 吉長(介)、森下(栄)
2月3日	特別養護老人ホーム 防災研修会	大阪市立社会福祉センター
	一般社団法人 大阪市老人福祉施設連盟	藤島(事)
2月23日	平成26年度 介護力向上講習会(和歌山分校)⑥	県民交流プラザ和歌山ビッグ愛
	全国老人福祉施設協議会	浅野(介)、久保(介)、大和(看)
2月28日	平野区在宅医療・ケアネットワーク研修会	平野区民ホール
	平野区在宅医療・ケアネットワーク委員会	北林(相)

3月10日	介護保険制度セミナー	シティプラザ大阪
	大阪府社会福祉協議会 老人施設部会	宇都宮(課)
3月17日	安全な介護 応用編	京都
18日	シモヤマ企画デザイン	谷脇(介)
3月19日	平成26年度第11期 介護力向上講習会⑥	ヘルサー半蔵門
20日	公益社団法人 全国老人福祉施設協議会	後藤(介)、花田(看)、中村(栄)

### (3) 障がい事業部関連

実施日	研修名	場所
	主催	参加者
6月5日	平成26年度 スーパーバイザー養成基礎講座	大阪府社会福祉会館 4階
	大阪府社会福祉協議会・大阪福祉人材支援センター	阪井(支)
6月9日	第一回サービスマナー・セミナー研修	大阪社会福祉指導センター 5階
	大阪府社会福祉協議会・大阪福祉人材支援センター	青木(支)
6月12日	平成26年度 全国知的障害関係施設長会議	東京国際フォーラム
	公益財団法人 日本知的障害者福祉協会	児玉(施)・松浦(施)
6月19日	平成26年度 スーパーバイザー養成基礎講座	大阪社会福祉指導センター 4階
	大阪府社会福祉協議会・大阪福祉人材支援センター	小笠原(支)
7月8日	強度行動障がい支援リーダー養成研修	阿倍野市民学習センター
	大阪府立砂川厚生福祉センター	松浦(施)
7月18日	スーパーバイザー養成研修	東京日本財団ビル
	一般財団法人日本自閉症協会・全国自閉症施設協議会	木坂(支)
7月20日	感覚統合療法入門講習会【基礎コース】2014	姫路獨協大学 学生会館 3階
	遊び心サポートセンタープレイフルネス	西田(支)・小笠原(支)・平岡(支)・児玉(施)
7月29日	さまざまな人権問題に関する研修会	大阪府社会福祉会館
	福祉と人権の研修ネットワークおおさか	原(支)・水谷(支)・楠本(支)
9月13日	障がい者虐待 その時あなたは	大阪市社会福祉研修・情報センター
	大阪市障がい者基幹相談支援センター	長野(支)
9月2日	平成26年度 第1回福祉職員研修 OJTリーダー養成	大阪府社会福祉会館
	福祉と人権の研修ネットワークおおさか	長野(支)
10月4日	行動障がいをどうとらえるか	たかつガーデン
	水仙福祉会アイサポート研究所	青木(支)・山之内(支)
10月22日	相談支援従業者初任者研修	ビック・アイ(国際障害者交流センター)
	大阪府社会福祉事業団	篠原(支)
10月23日	介護力向上講習会和歌山分校	串本ロイヤルホテル
	和歌山県老人福祉施設協議会	篠原(支)
11月10日	スーパーバイザー養成研修	福) 萌葱の郷



14日	一般財団法人日本自閉症協会・全国自閉症施設協議会	木坂(支)
11月15日	2014年度 社会福祉士実習指導者講習会	関西大学 堺キャンパス
16日	(公社)大阪社会福祉士会等	木村(係)
12月15日	スーパーバイザー養成研修	福)あかりの家
~19日	一般財団法人日本自閉症協会・全国自閉症施設協議会	木坂(支)
1月22日	中堅職員研修「職場に埋もれる良い支援への気づき」	大阪府社会福祉会館 5階
	一般社団法人 大阪知的障害者福祉協会	小笠原(支)・長野(支)
2月5日	アメネティーフォーラム19	大津プリンスホテル
~7日	アメネティーフォーラム実行委員会 NPO 法人全国地域生活支援ネットワーク	児玉(施)・松浦(施)・和田(支)・原(支) 水谷(支)・楠本(支)
2月12日	第51回 近畿地区知的障害者関係施設職員研修会	ホテルアウィーナ大阪
13日	近畿地区知的障害者施設協会	森(支)・濱寺(支)・小谷(支)
3月5日	H26年度 従事者部会人権研修 大阪府社会福祉協議会	社会福祉指導センター 松浦(施)
3月13日	スーパーバイザー養成研修	日本財団第会議室
~15日	一般財団法人日本自閉症協会・全国自閉症施設協議会	木坂(支)
3月19日	精神障害者等雇用促進セミナー 大阪労働局	ドーンセンター 7階ホール 日比(主)

\*職種等の表記 (介)介護従業者 (支)支援員 (保)保健師 (看)看護従業者 (相)相談員 (栄)栄養士 (医)医師 (理)理学療法士 (ワ)介護支援専門員 (事)事務員 (世)GH世話人 (施)施設長 (管)管理者 (課)課長 (師)師長 (係)係長 (主)主任 (主補)主任補佐

## IX. 災害対策の実施

### 1. 消防訓練の実施について

施設名	実施日	訓練内容
特別養護老人ホーム喜連	9月26日	規定消防訓練(昼間想定)
	3月26日	規定消防訓練(夜間想定)
特別養護老人ホーム長吉	9月22日	通報訓練・避難誘導訓練・消火訓練(昼間想定)
	3月16日	避難訓練・消火訓練(夜間想定)
長吉西地域在宅サービスステーション	3月13日	通報訓練、避難訓練、
永寿ケアセンター	11月7日	通報訓練、避難訓練、消火訓練(夜間想定)
	3月4日	通報訓練、避難訓練、消火訓練(夜間想定)
永寿特別養護老人ホーム	6月19日	通報訓練、避難訓練、消火訓練(昼間想定)
	11月19日	通報訓練、避難訓練、消火訓練(夜間想定)
永寿平野西の家	5月23日	通報訓練、避難訓練、消火訓練
	11月26日	通報訓練、避難訓練、消火訓練
永寿の里若葉	9月22日	避難訓練・消火訓練
	3月16日	避難訓練・消火訓練
永寿の里彩羽	9月22日	避難誘導訓練(昼間想定)・消火訓練
	3月16日	避難訓練(夜間想定)・消火訓練

永寿ホームあおぎり	4月15日 17日18日	あすなろ・くこの木・みづき・わたの木・なぎ の木・あおぎり（避難訓練）
永寿ホームあおぎり	5月13日 14日15日	あすなろ・くこの木・みづき・わたの木・なぎ の木・あおぎり（避難訓練）
永寿ホームあおぎり	7月9日 18日	あすなろ・くこの木・みづき・わたの木・なぎ の木・あおぎり（避難訓練）
永寿ホームあおぎり	9月12日 13日14日	あすなろ・くこの木・みづき・わたの木・あお ぎり（避難訓練）
永寿ホームあおぎり	10月2日 8日14日	あすなろ・くこの木・みづき・わたの木・なぎ の木・あおぎり（避難訓練）
永寿ホームあおぎり	2月10日 21日	あすなろ・くこの木・みづき・わたの木・あお ぎり（避難訓練）
永寿ホームあおぎり	3月8日 15日	あすなろ・みづき・わたの木・あおぎり（避難 訓練）

## 2. 災害訓練の実施について（地震・津波想定）

### ○特別養護老人ホーム喜連

実施日	訓練内容	備考
5月中	図上訓練（震災時対応訓練 DVD 鑑賞）	全従業員
6月11日 19日24日	避難訓練	初動期～対策本部設置
7月16日 19日	避難訓練	初動期～対策本部設置
8月25日 28日	避難訓練・食事提供	初動期～対策本部設置 食事提供
9月5日	津波想定、上部階への避難訓練	大阪880万人訓練
11月20日 22日	避難訓練・被災時排泄対応訓練	初動期～対策本部設置 被災時排泄対応訓練
2月26日	要援護者の受入れ想定	1階多目的ホール環境整備訓

### ○特別養護老人ホーム長吉

実施日	訓練内容	備考
6月16日	災害時初動対応訓練	
7月22日	災害時食事提供訓練	
8月18日	災害時防災訓練（大阪市防災アドバイザー・彩羽と共同実施）	
9月5日	大阪880万人訓練に伴う施設防災訓練	
9月22日	災害時排泄訓練	
10月20日	災害時食事提供訓練（平野区まちづくり協働課・長吉地域協働）	
11月17日	災害時の電源確保訓練（発電機・ランタン等の設置・使用）	
12月22日	災害時の発電機使用訓練、防災備蓄品使用訓練	
1月19日	災害時の発電機使用訓練、緊急連絡訓練	
2月16日	災害時救急対応訓練	

3月16日	災害時初動対応訓練	
-------	-----------	--

○長吉西地域在宅サービスステーション

実施日	訓練内容	備考
4月12日	初動期対応（避難・救護・対策本部開設）	
9月5日	初動期対応（避難・救護・対策本部開設）	880万人訓練

○永寿ケアセンター

実施日	訓練内容	備考
7月4日、9日	災害時の食事提供訓練	
9月5日	大阪880万人訓練 地震発生5分後大津波警報発令 安全確保	880万人訓練

○永寿特別養護老人ホーム

実施日	訓練内容	備考
8月29日	地震想定訓練・備蓄食調理実践	
9月5日	880万人訓練 地震想定訓練	880万人訓練
2月17日	地震想定訓練・津波想定訓練（夜間）	

○永寿平野西の家

実施日	訓練内容	備考
6月30日	地震発生から初動機まで。非常時のトイレ使用方法の確認。	
9月5日	880万人訓練 地震想定訓練	880万人訓練

○永寿の里若葉・彩羽

実施日	訓練内容	備考
4月28日	津波を想定し、上層階への避難誘導訓練	
5月27日	津波を想定し、上層階への避難誘導訓練	5月3日 食事提供訓練
6月23日	津波を想定し、上層階への避難誘導訓練	6月20日 食事提供訓練
7月28日	津波を想定し、上層階への避難誘導訓練	7月30日 食事提供訓練
7月22日	津波を想定し、合同避難誘導訓練	特養長吉と合同
8月18日	津波を想定し、上層階への避難誘導訓練	8月30日 食事提供訓練
9月5日	津波を想定し、上層階への避難誘導訓練	
11月4日	津波を想定し、上層階への避難誘導訓練	
12月29日	津波を想定し、上層階への避難誘導訓練	12月26日 食事提供訓練
3月4日	津波を想定し、上層階への避難誘導訓練	1月30日 食事提供訓練

○永寿ホーム

実施日	訓練内容	備考

6月13日 14日22日	津波を想定し、上層階への避難誘導訓練	あすなろ・くこの木・わたの木・あおざり・なぎの木
8月8日,9日 14日15日	津波を想定し、上層階への避難誘導訓練	あすなろ・くこの木・わたの木・あおざり・なぎの木・みづき
11月13日 15日16日	地震を想定し、避難誘導訓練	あすなろ・くこの木・わたの木・あおざり・みづき
12月4日11日 17日19日	津波を想定し、上層階への避難誘導訓練	あすなろ・くこの木・わたの木・あおざり・なぎの木・みづき